

新小学校への通学手段にかかる町の考え方について

R3.6.18現在
教育魅力課

町から校区への提案内容(令和3年2月時点)

- ・令和2年度の奥出雲交通の路線を基本とする。ダイヤを大幅に変更しない。
- ・徒歩通学圏を現三成小、横田小校区または新学校を中心に3km以内とする。
- ・上記に該当しない家庭はバス通学とする。
- ・バス通学家庭について、奥出雲交通バス停から家庭までの距離が3km以内の場合、児童生徒をバス停へ運ぶための支援等は行わない。
- ・バス停から3km以上の家庭については、自家用車登校への補助金支給やタクシー、自治会輸送などを含めたバス停輸送支援を検討する。

【補足】

- ・奥出雲交通(株)のダイヤは通学時刻をベースとして編成されています。それを基本とし、新小学校の学校運営にできるだけ近づけられるようなダイヤ変更を検討します。
- ・バス停から遠距離(3km以上)である家庭に対しては、自家用車でのバス停への輸送に対する補助やタクシー、自治会輸送(地域輸送)等によるバス停への輸送支援を検討します。
- ・校区別協議会からご意見いただいた通学サポートの対応について検討を始めます。ただし、永続的な対応は現在考えていません。

【裏面の検討を踏まえた上での、町としての考え方】

奥出雲交通(株)の路線を基本とした通学対応

路線バスダイヤを学校運営にできる限り近づけ、不足部分をその他で補完する

定期路線バス
兼 通学バス
運行: 奥出雲交通



- ・小中学校の各学年下校タイミングに合わせたダイヤ変更を検討
- ・地域の放課後児童クラブ、拠点施設への輸送を最大限確保

バス路線の補完

バス停等への輸
送補完(案)

タクシーほか
運行: 町内タクシー
業者など



地域輸送
運行: 小さな拠点
等



奥出雲交通の路線を基本とした通学対応に係る下記の課題について、
現在検討を重ねています。

【導入時】

- ・通学に合わせたダイヤ変更
- ・通学に合わせた車両追加、運転手増員

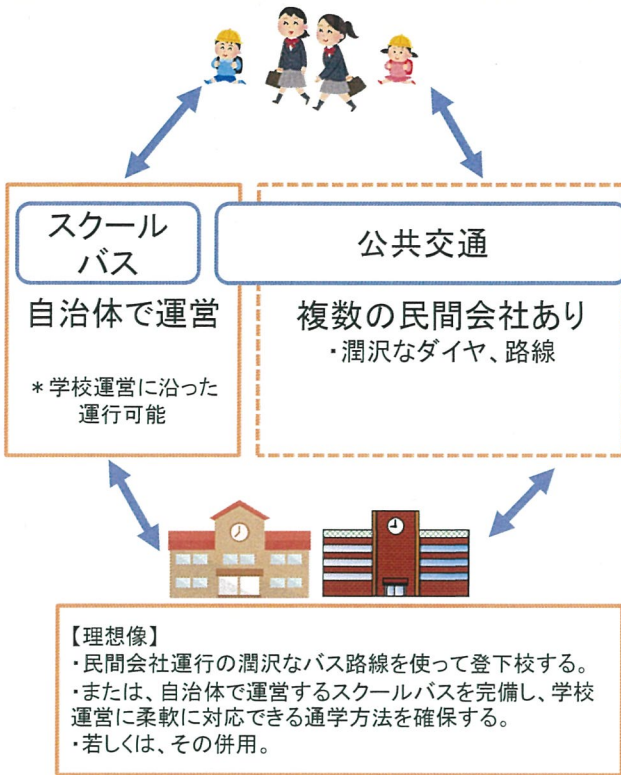
【運用時】

- ・遠距離通学者の支援(地域輸送、民間事業者、補助金で補完を検討)

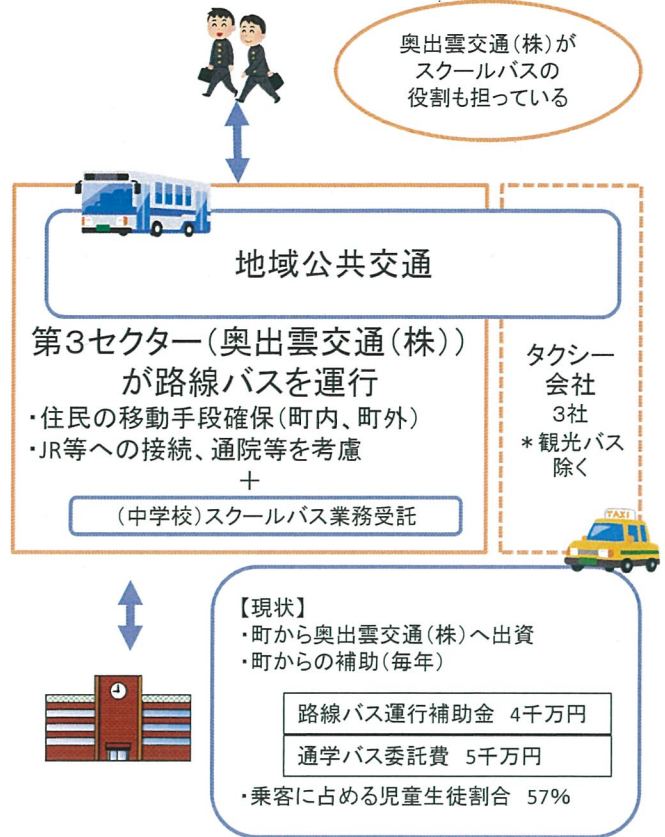
(裏面あり)

【検討資料】

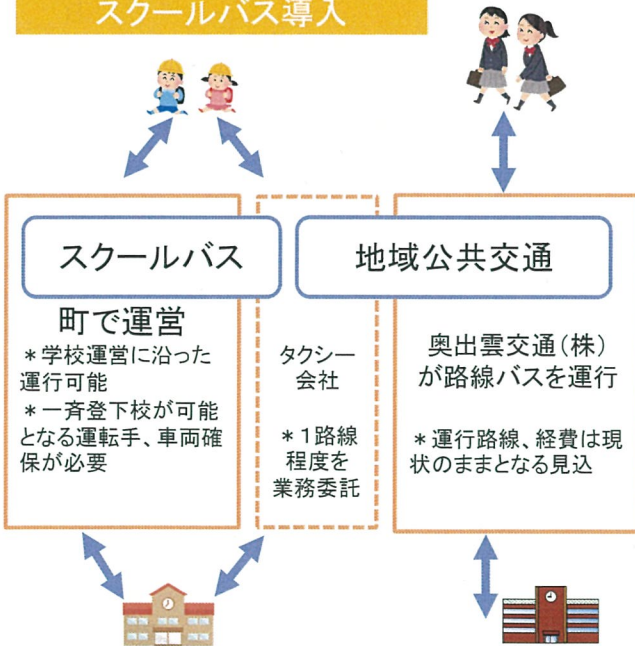
通学方法の理想像



～ 奥出雲町の現状 ～



仮定① 小学生専用スクールバス導入



【課題】 スクールバス運行経費純増、運転手確保

- (現時点での想定) 11方面の一斉登下校
- ・最低11人の運転手+11台のバス+αが必要
 - ・初期経費 2,000万円×11台=2億2,000万円(7年程度で更新)
 - ・経常経費【人件費】360万円/年・人×11人≒4,000万円(毎年)
- 【その他】修繕費、燃料費、車庫管理費など

仮定② 路線バス運行業者の車両、人員を全てスクールバスに移管



【課題】 小中学生以外の住民移動手段の確保方法

- ・スクールバスは、児童生徒以外乗車できない。
- ・地域輸送(自治会輸送)では、地域を越えた運行ができない。
- ・病院への通院、JR利用のための移動手段をどのように確保するのか。